

Special Essay

図書館の思い出：Yale University Library

バイオ統計センター所長 教授 角間辰之

子どもの頃は勉強嫌いで、図書館の良い思い出は一つも無い。一方最近では、論文はインターネットからダウンロードでき、WEB上で必要な情報がほぼ収集できるようになり、図書館に縁遠くなっている。そんな私に図書館ニュース“Special Essay”の原稿依頼が来たとき少々戸惑った。私が図書館のお世話になったのは、米国コネチカット州ニューヘブーンにあるエール大学大学院在学中であった。エール大学では、Yale School of Public Health



でバイオ統計学(Biostatistics)を専攻し修士課程2年間と博士課程5年間の7年間を過ごした。Yale School of Public Healthの歴史は古く1915年にDepartment of Public Healthとして医学部内に設立され、1960年代には疫学、

予防医学が統合されDepartment of Epidemiology and Public Health(EPH)となり今に至っている。在学中は、毎日EPHの図書館で専門書・論文と格闘していた。講義レポートの資料集めのためにEPHの隣の医学部図書館(The Harvey Cushing/John Hay Whitney Medical Library)にしばしば出かけたが、



ついでに医学部図書館に附設されたMedical Historical Libraryで目録に載っていない歴史的資料を閲覧するのが楽しみだった。大学のメイン図書館Sterling Memorial Libraryは7階建の重厚な建物で400万冊の蔵書を保有しており、大学院生は手続きをすると年間を通して自分の机をキープできた。図書館前広場の地下にはメイン図書館と直結しているBass Libraryがあり学部の学生でいつもにぎやかだった。大学講堂(Woolsey Hall)前の大きな広場には古書を所蔵したBeinecke Rare Book and Manuscript Libraryがあり、大学訪問者のツアーコースになっている。Yale大学を訪問する機会があれば、歴史と伝統を体感できる図書館巡りを是非お勧めする。



(写真) 上：Sterling Memorial Library、中：Beinecke Rare Book and Manuscript Libraryの内部と外装、下：Medical

History LibraryとHarvey Cushing/John Hay Whitney Medical Libraryの外装